

No.27
2007.9.10

いしかわ の遺跡

手形・足形づくり体験!!



縄文時代の出土品に、乳幼児等の「手のひら」や「足のうら」を粘土に押し付けて焼き上げた土製品があります。片方の端に紐を通すための穴のあるものがほとんどであることから、子どもの健やかな成長などを願うお守り(護符)の様なものだったとも考えられています。

この「手形・足形付土版」にちなみ、こどもの日を含む平成19年4月28日から5月6日まで、本体験を行い、乳児から小学校4年生まで、300人以上の「手・足跡」がセンターに残されました。

焼成の後、6月9日から本館ホールにて展示し、1人2点作製した作品のうち1点を体験者が持ち帰り、残ったもう1点は、古代体験ひろばにて、近日、展示公開となります。

財団法人 石川県埋蔵文化財センター

Ishikawa Archaeological Foundation

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1

TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731

E-mail mail@ishikawa-maibun.or.jp

ホームページ <http://www.ishikawa-maibun.or.jp/>

古代
体験

埋蔵文化財センター 入館者10万人達成！

平成19年7月9日(月) 埋蔵文化財センターに10万人目の入館者をお迎えしました。

当日は、金沢市内の幼稚園の家庭教育学級の研修として、22名の団体が見学・体験に来られ、その中でお子さんを同伴されたお母さんが10万人目となり、記念品(特製まが玉と埴輪復元品)ともども皆さんで写真撮影となりました。

平成10年4月23日の開館から数えて9年3箇月目、これからも、古代の暮らしや文化に来館者が気軽に楽しくふれられる開放型の施設として、多くの県民の皆さまをお迎えしたいと思います。



大玉と卑弥呼がお迎えしました

平成19年度 古代体験学習講座「糸づくりと草木染め」

平成19年6月24日(日)に開催した本講座では、植物染料の楊梅(やまもも)と蘇芳(すおう)を使って糸・布を染め、カラムシの茎から表皮を剥ぎ取って、繊維素材を取り出し(おひき)糸を績み、紡錘車を使って撚りをかけました。

この時染めた糸は、次の週に連続して開催した「編布と組みカゴ」(編布の)体験材料ともなるものです。



蘇芳で纈織(こうけち)染め(絞り染め)した布。素敵に仕上がりました。



糸の材料となるカラムシを観察...



紡錘車を使って撚りをかけます。コツをつかむまでが大変です。

平成19年度 古代体験学習講座「^{アソビ}編布と組みカゴ」

「糸づくりと草木染め」に引き続き、平成19年7月1日(日)に開催した本講座では、いつも使う木のおもりにかわって石のおもりを使って編布を編み、組みカゴづくりでは、近年、佐賀県東名遺跡での発見例から、その古さが約7,000年前(縄文時代早期)までさかのぼった「六つ目カゴ」に挑戦しました。



最初に、出土品の解説を聞きます。ちょっと、むずかしいかな...



石のおもり使って、草木染めで染めた糸で布を編んでいます。



六つ目カゴづくりは、まず、六角形の“目”からはじまります。

出前
教室

出前考古学 1万人記念教室開催！

平成19年4月26日(木) 白山市立広陽小学校へ出かけ出前考古学「1万人記念」教室を開催しました。

当日は、「縄文人の暮らしにふれる」という内容で、6年生(2クラス60名)の皆さんに、出土品などをもとにしたガイダンスに引き続いて、“貫頭衣試着 黒曜石試し切り くるみ割り 火おこし”を体験してもらいました。



教室(ガイダンス)の様子



記念品(復元土器)の贈呈

平成10年の教室スタートから数えて179団体目、これからも、県下の遺跡から出土した土器や石器などを活用して、学校や公民館などへ出向き、多くの県民の皆さまに古代の暮らしや歴史などを学ぶ機会をお届けしたいと思います。

平成19年度 移動講座「まいばん出^デ張^バ」

平成19年7月1日(日)と7月8日(日)、七尾市と小松市で「のりを掘る」・「かがを掘る」と題して開催した本講座は、今年度、埋蔵文化財センターが財団法人として発足して10年目にあたるのを機に、この間の発掘調査の成果を地域に出向いてわかりやすく解説するもので、あわせて140人の参加をいただきました。



かがを掘る「報告」



のりを掘る「展示解説」

報告及び出土品・写真パネルの解説等を通して、地域の歴史について理解を深める機会にさせていただけたかと思えます。今後も、県内市町教育委員会等と連携を図りながら、県内各地で発掘成果の報告を行っていく予定です。

平成19年度「親と子の発掘体験教室」

平成19年7月28日(土)と8月4日(土)、夏休みを利用して親子で遺跡に親しんでいただくため、宝達志水町杉野屋遺跡(奈良・平安時代)と白山市五歩市遺跡(弥生時代～古墳時代・中世)の発掘現場でそれぞれ開催した本教室は、両会場あわせて93人の参加を得て大変充実したものとなりました。

両日とも、暑さもほどほど？発掘や出土品の洗浄など自然を相手に地道で根気のいる作業ですが、あちらこちらで歓声があがりました。本教室などを除くと、親子で遺跡を実際に掘ることはないかと思えます。ふるさとの歴史や文化が明らかになっていく様子を実感していただけたでしょうか。



五歩市遺跡 / 弥生時代の竪穴建物の発掘です。土器がア出るのでエ慎重にイ...



杉野屋遺跡 / 疲れた？でも！がんばりました。親子で夏休みの“埋メモリー”...

平成19年度 発掘調査遺跡



	遺跡名	所在地
1	野々江本江寺遺跡	珠洲市野々江町
2	飯田町遺跡	珠洲市飯田町
3	七尾城跡	七尾市古城町他
4	太田ツツミダ遺跡	羽咋市太田町
5	杉野屋遺跡	宝達志水町杉野屋
6	加茂遺跡	津幡町加茂
7	畝田・寺中遺跡	金沢市畝田西
	畝田遺跡	〃
	畝田大徳川遺跡	〃
	畝田B遺跡	金沢市畝田中
8	元菊町遺跡	金沢市三社町他
9	金沢城跡	金沢市広坂
10	二日市イシバチ遺跡	野々市町二日市町
11	三日市A遺跡	野々市町三日市町
12	末松遺跡	野々市町中林
13	五歩市遺跡	白山市五歩市町
14	分校C遺跡	加賀市分校町
15	松山D遺跡	加賀市松山町
16	水田丸遺跡	加賀市水田丸町

水田丸遺跡

加賀市の南東部、水田丸町地内に所在する本遺跡は、市内を流れる動橋(いぶりはし)川の中流域左岸に位置します。遺跡周辺には、縄文時代の横北遺跡や国指定史跡法皇山横穴古墳などが知られています。



完掘状況(南から)

調査は、緊急地方道路整備(主)山中伊切線を原因として、昨年に引き続いて実施し、室町時代から戦国時代にかけての掘立柱建物、井戸跡などが見つかっています。

掘立柱建物は、昨年の調査を含めて2×2間以上の規模と考えられるものを3、4棟確認しています。井戸跡は6基を数え、その内の1基は石組みの井戸であり、規模は直径70cm、深さ2m以上になります。使用されている石は、10～40cmの大きさの自然石であり、最上部に大きめの石を配置し、その下部は横長の石を要所に置いて、その上下に方形や円形の石の平坦面を内側に向け、整然と組まれています。



井戸跡

井戸跡などの遺構からは、越前焼、加賀焼、珠洲焼の甕や播鉢が出土していますが、遺跡の位置的条件により、圧倒的に越前焼と加賀焼が多く、珠洲焼は数点にとどまっています。その他には、土師器皿、青磁碗、銭貨、石臼、フィゴの羽口、鉄滓なども出土しています。

以上、水田丸遺跡は、室町時代から戦国時代にかけて営まれた集落跡であり、また、フィゴの羽口や鉄滓が出土していることから、周辺で小規模な鍛冶を行っていた可能性があります。



井戸跡内部



石臼 出土状況

まつり

平成19年度 まいぶん考古学講座「まつりの考古学」

センター職員が講師となって、考古学や埋蔵文化財に関する話題をわかりやすく解説する本講座は、平成19年5月20日(日)から6月17日(日)まで5週連続で開催され、延べ150名の方々が受講されました。

今年度は、「まつりの考古学」をテーマに、縄文時代から中世に至るまで、さまざまな視点から「まつり」に関わる精神文化について解説しました。

遺構や遺物といったモノを通して、発掘調査が明らかにしてきた、その時々のあるいは時代を超えた人々の心のあり様を、垣間見ることができたかと思えます。



第1回「環状木柱列のまつり」

平成19年度 いしかわの発掘展「まつりの像と景」

平成19年7月20日(金)から9月2日(日)まで、いしかわの発掘展「まつりの像と景」を開催しました。

まつりは、古く自然と向き合う生活を送ってきた人々が、自然の中に見出した人知を超えた存在に対して、感謝をし、災いを払い、豊饒や繁栄を願う祈りから始まったものです。

今回の展示では、県内遺跡出土の縄文時代から近世に及ぶ「まつり」に関連する遺物約260点を通して、まつりに使われた道具(像)とまつりが行われた場所(景)にみる、当時の人々の生活の根底にあった世界観や精神性について紹介しました。



まつりの「像」の展示コーナー

平成19年度「夏休み“はにわ”づくり」体験

平成19年7月21日(土)から8月13日(月)までの24日間、県内出土品などを参考に人物埴輪づくりに挑戦する本随時体験では、初めての実施となった昨年度にも増して、連日、多くの方々に体験いただき、約750点もの埴輪が本館ホールに整列し、8月25日(土)から、体験者のもとへ一斉に返却されていきました。

概ね、小学生以上が(小さいお子さんは保護者と一緒に)体験し、乾燥後、古代体験ひろば「復元古窯」にて焼き上げたものです。

当時の技法を参考にしたとはいえ、いずれも、本当に個性豊かで味わい深いものばかりとなりました。



はにわ! はにわ!! はにわ!!!



迎えを待つ「はにわ」たち

収蔵品ギャラリー

当センターが保管している数多くの出土品の中から、選りすぐりの「収蔵品」をご紹介します。
今回のテーマは「まつり」です。

収蔵品No.11

ぼっこつ
ト骨 - 金沢市 畝田遺跡 -

イノシシやシカなどの動物の骨の表面に、焼いた火箸のようなものを押しあててできる焼け跡やひび割れの具合をみて吉凶を占うことを「骨ト(こつぼく)」といい、日本でも古くから行われています。

この時使われた骨をト骨(ぼっこつ)といい、弥生時代から近世にわたる各時代の遺跡から出土しています。骨トは、弥生時代の日本について記録したいわゆる「魏志倭人伝(『三国志』魏書 東夷伝倭人条)」に「骨を灼きてトし、以って吉凶を占い」とあり、また、『古事記』や『日本書紀』でも、「太占(ふとまに)」という名で登場します。現代においても、一部の地域で、農作物の出来具合などを占う神事として受け継がれています。

金沢市畝田遺跡出土のト骨は、古墳時代初頭の川跡から出土したもので、シカの左の肩甲骨(けんこうこつ)のうち、不要な部分を除去して両面から薄く削った後、外側から火箸のようなもので「焼き」を入れています。

焼かれた痕跡は20箇所みられ、黒く焦げ付いていたり、穴が開いたりしていますが、はたして、占いの結果はどのようなものだったのでしょうか。



内側

外側

訪ねてみよう能登・加賀の遺跡

県指定史跡 松波城跡庭園跡

戦国大名能登畠山氏の庶流松波畠山氏の居城といわれる松波城跡は、能登町松波、のと鉄道旧松波駅西手の丘陵先端部に位置します。県指定史跡である松波城跡庭園跡は、昭和37年、松波城跡公園整備中に偶然発見され、昭和55年に再発掘調査されています。そして、平成19年、保全活用を目的に再び発掘調査が行われました。

庭園は、丘陵斜面に造成された庭園郭の東向き斜面を背景として造られています。扁平な円礫を縦ならびにして一面に敷きつめ水流を表現し、その間に、あたかも流れに洗われた岩山や瀬のごとく大小の石を配置することで深山溪流の趣をみごとに象徴した枯山水の庭です。特に、大小の円礫を使い分けることで流れに強弱をつけ、渦巻、よどみ、連波、うねりなどの流れの変化を極めて繊細に表現する意匠は類例のないもので、この庭園の趣を深めています。

また、この庭園跡と同時に存在したと考えられる建物跡がやや離れて見つかっています。礎石や柱間寸法から小さな草庵風の建物と想定され、枯山水と一体的に庭園郭を構成していたものと考えられます。庭園郭の広さからして全体として茶庭的な趣の強い庭園であった可能性が強く、発掘調査で出土した天目茶碗等からもそれが窺えます。

このように、庭園跡は室町様式の特徴を示す枯山水遺構として県内唯一のもので、その学術的価値が極めて高い貴重な文化財です。

今年度の発掘調査では、建物の規模がやや大きくなること、建物と枯山水がほぼ同時期に造られたことなどがわかりました。

平成19年11月には、旧松波駅舎を活用して松波城跡を紹介する情報館がオープンしました。館内には、松波城主であった畠山氏の系図や城跡の紹介パネル、公園一帯の立体地図模型などが展示されています。



庭園跡の石組



平成19年の発掘調査

所在地：能登町松波

交通：能登有料道路此木ICより車で40分

お問い合わせ：能登町真脇遺跡縄文館

電話 0767-62-4800